

LEDの新たな可能性を拓く。

第15期 株主通信

IR REPORT

2007年8月1日～2008年7月31日まで

CONTENTS

■ トップインタビュー	01
■ What's CCS	03
■ 第16期経営計画	04
■ 特集	05
■ 財務諸表	07
■ トピックス／CSR活動	09
■ 会社概要／株式の状況	10

シーシーエス株式会社

証券コード:6669

第16期は“新たな事業化の1年”と位置づけLED技術で光産業を創造します。



代表取締役社長 米田 賢治

社 是 お客様に愛と感謝
 企業理念 光を科学し、社会に貢献する
 中長期ビジョン 新たな光産業を創出し、
 光の世界企業を目指す

Q1 第15期(2008年7月期)決算の
 総括をお聞かせください。

A 投資の成果は顕在化しはじめており、
 狙い通りの1年となりました。

第15期の連結業績は売上高5,602百万円(前期比8%増)、営業利益779百万円(前期比10%増)、経常利益765百万円(前期比6%増)、当期純利益501百万円(前期比16%増)となりました。国内の工業用LED照明事業の売上高はソリューション提案の強化、新製品ラインアップの拡充などが奏功し、順調に伸びました。海外は、設備投資抑制の影響を受け米国はやや低調でしたが、欧州で主要顧客を中心に販売が好調だったことに加え、円安ユーロ高の影響もあり売上高を伸ばしました。中国も当社グループのブランドを浸透させることができ、案件数が倍増しました。

第15期は「投資の年」と位置づけて、光技術研究所の開設、自然光LEDの量産化技術の確立、また新たなテストルームの開設など、積極的な設備投資と人材への投資を行いました。それらの成果は顕在化しはじめており、狙い通りの1年だったと思います。

Q2 第16期(2009年7月期)の重点施策を
 教えて下さい。

A 第15期に自然光LEDの研究開発をスタートし量産
 が可能となりました。第16期は、自然光LEDを搭載
 した商品の企画およびマーケット開拓を行ってまいります。
 「新たな事業化の年」にしたいと考えています。

第15期に目視検査用、内視鏡用、顕微鏡用の自然光LED照明の開発を完了しました。これら目視分野、メディカル分野、顕微鏡分野、さらに民生分野において自然光LEDを搭載した商品を第16期中に発売する計画です。また、主力のマシンビジョン(画像処理用)照明事業における新規施策として、LED光源ボックスの世界戦略品「PFB-20SW」とラインセンサ用照明を軸に積極的に販売をかけていく計画です。「PFB-20SW」は、当社独自の技術力を生かして、100Wハロゲンの1.3倍の明るさ、同じく100Wハロゲンの5分の1の消費電力、コンパクト化、低価格化を実現したLED光源ボックスです。環境負荷の低減や効率化が求められる生産現場などのユーザーに対して、ハロゲン光源からの置き換えを積極的に提案していくつもりです。また、今後LED化が進むとみられるラインセンサ用照明では、製品ラインアップの拡充、ソリューションの確立を図り、市場開拓を進めていきます。

さらに海外展開については、米国、欧州、アジア、それぞれの地域に応じた戦略を推進します。欧州では代理店やマシンビジョンメーカーとの関係を強化し、新規アプリケーションとして太陽電池向けが有望となります。米国では自動車メーカーに加え、医薬品や生活必需品向けにも積極的にアプローチします。アジアでは、3月に中国・深圳に拠点を開設しましたが、今後は中国全土において積極的に事業を展開する予定です。

これらの施策を推進し、第16期の連結業績につきましては売上高6,300百万円(前期比12%増)、営業利益900百万円(前期比16%増)、経常利益880百万円(前期比

15%増)、当期純利益540百万円(前期比8%増)と引き続き増収増益を見込んでおります。

Q3 自然光LED照明の商品化について具体的に教えてください。

A これまで営業本部内に新規分野の開拓を目的とする課がありましたが、新たに「新規事業部」を設け、従来のマシンビジョン事業部と独立させて、マーケティング活動を積極的に展開してまいります。

現在、自然光LED照明の商品化に取り組んでいますが、自然光LEDの応用分野として拡大が見込まれるマーケットには、まず、目視検査用照明があります。様々な製品の最終検査工程では、まだ大半は人の目視による検査が主流です。目視検査用の光源は蛍光灯やハロゲン電球からLEDに置き替わっていくとみていますが、従来のLEDでは色の再現性が低く、かつ目に負担がかかるという問題点がありました。これに対して、当社の自然光LEDは太陽光に近い光を実現していますので、微妙な色合いのチェックができ、目にも優しいため、目視検査用の照明として最適です。自動車工場などの塗装ラインや印刷工場、食品工場などを中心に、幅広い業界からニーズは高いとみています。このほか、従来の白色LEDを用いた場合に見えにくかったピンク色などの紫系の本来の色がよく見えるという特長から、百貨店の化粧品や衣料品売場などへの展開もできると考えています。また、紫外線を含まないことから対象物を傷めないという特長を活かして美術館、博物館や重要文化財の照明用途などもねらえます。

Q4 その他の新規事業分野の状況はいかがでしょう。

A LED照明による植物工場の実験を本格的にスタートしました。

植物工場向けのLED照明は、フェアリーエンジェルと三菱化学との3社で共同研究を進めています。10月に、世界最大規模と言われているフェアリーエンジェルの植物工場「エンジェルファーム福井」で実験をスタートします。これまでも千葉県・野田工場で研究レベルでは手掛けていましたが、今回は、屋根に太陽電池パネルを設置し、植物工場内の蛍光灯をLED照明に置き換え、太陽電池でLED照明を灯して、野菜の生育状況を観察する計画です。この福井工場では、実用化レベルへと開発を本格化してまいります。太陽電池パネルとLED照明とのマッチングが上手く進めば、砂漠地帯等でのLED植物工場の開設が可能となります。今後は、太陽電池の電力を効率よくLEDの光に変換するところの制御技術がポイントとなってきます。

民生用分野で開発を進めているゆらぎ灯籠は、年内の発売を見込んでいます。9月9日～24日まで開催された、京都の「守ろう!藤袴」イベントで、当社のLEDゆらぎ灯籠が採用されました。今後は、料亭や一般家庭向けの販売を始められるよう展開していきます。

店舗用の照明では「可変式LEDスポットライト」を発売します。これは、照射範囲が変えられるうえ、業界内で最も明るく、効率が良く、価格的にも競争力を持った製品で、第16期の重点商品として拡販に取り組みます。

このほか、顕微鏡用や内視鏡向け、また、LEDの波長の中のUV(紫外光)を照射して、接着剤や樹脂を固めるといったような特殊な分野への展開も検討しています。

Q5 新たなコア技術の開発について教えてください。

A 付加価値の高い、シーシーエスでしか作れない技術の確立を目指します。

新規事業分野の開発に重要となるコア技術の開発には、様々なものがありますが、そのうちの最も重要なコア技術として、LEDのデバイス技術を確認したいと考えています。LEDの光の取り出し効率を高めることや、放熱効率を高めるといったような要素技術で、どこにもマネの出来ない、シーシーエスでしか作れない技術を確認し、特許化を進めていきたいと考えています。

Q6 シーシーエスが目指す姿をお聞かせ下さい。

A 光の世界企業として、どんな人からも憧れられるような企業に成長していきたいと思っております。

当社は、創業以来、社名にも込めた通り、お客様の満足を創造していくということ、光の技術を通して社会に貢献するという企業理念のもとに、画像処理で培ったLED技術をもって、新たな光産業を創造していきたいと考えています。人と地球に優しい、光の世界企業として、どんな人からも憧れられるような企業に成長していきたいと思っております。株主の皆様には末永く応援していただければ幸いに存じます。

独自のライティング技術でLEDの新たな可能性を拓く

CCSは画像処理用LED照明の国内トップメーカーとして独自のライティング技術、ノウハウをもって、様々な工場等における画像処理の場面に、最適なライティングを提案しています。
 当社の活躍の場は、医・食・住と幅広い分野にわたり、国内のみならずグローバルに広がっています。
 LEDを中心とする光は計り知れない可能性を秘めています。
 CCSでは、人にやさしく、環境にやさしい、新しい光の提案を追求し、環境共生型企業として、持続可能な社会の創造に貢献してまいります。

目指すは
新たな光産業の創出
光の世界企業へ

■マシンビジョン照明分野



様々な製品の品質検査に画像処理技術が活用されていますが、この画像処理の成功のカギを握るのがLED照明です。人間の目では判別が難しい微細で複雑な工業用製品の検査分野で、当社のLED照明が活躍しています。

成長の加速

成長ビジネス

成長ドライバーの拡充

■3つのコアテクノロジー

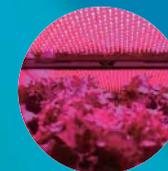


新規ビジネス



■顕微鏡・目視分野

LEDの長寿命性を活かしながら、光量を最大に引き出し顕微鏡に適した光技術を追求しています。



■バイオ・メディカル分野

バイオ分野は、独自開発の植物育成用LED照明を活用した「農業の工業化」の実現に取り組んでいます。
 メディカル分野では、診断機器をはじめとする治療に必要な光の応用方法を研究しています。



■民生分野

ゆらぎ灯籠や店舗用スポットライトのマーケットを開拓してまいります。

グローバル展開

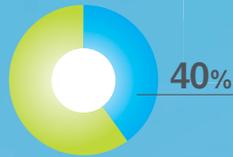
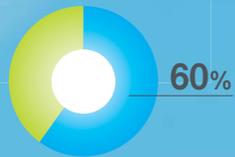
日本、北米、欧州、アジアの世界4極体制を確立し現在、画像処理用LED照明で国内60%、世界40%のシェアを占めています。



■当社シェア

画像処理用LED照明で国内シェア1位

画像処理用LED照明で世界シェア1位



■地域別売上高



第16期 経営計画

1 マシンビジョン(画像処理用)照明事業の強化

■ 顧客満足最大化に向けた事業基盤の再構築

- ・ ビジネスモデルの再構築
- ・ 生産体制の強化
- ・ LEDコア技術の深化と進化
- ・ 「品質第一」の実践



■ ハロゲン置換えの推進

- ・ 2つの製品 (PFBシリーズ、ライン照明) を軸にハロゲンからLEDへの置換えを推進



2 新規事業分野の創造と育成・拡大

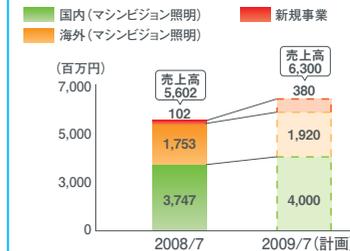
- 自然光LED搭載商品の市場投入(自然光LEDのマーケットをつくる)
- 新たなコア技術の開発と新市場の開拓(コア技術を進化させる)



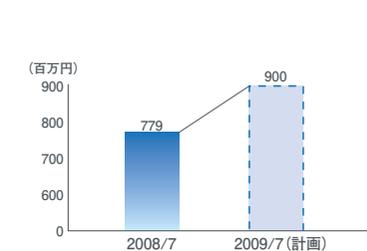
3 海外事業展開の強化

- グローバル経営体制の構築(グローバル化)
- 各国の市場規模やニーズに即した拠点戦略(ローカル化)

事業別売上高



営業利益



技術開発本部の取り組み

技術開発本部長へ
INTERVIEW

今号の特集ではシーシーエスの
技術開発本部の取り組みをご紹介します。

夢の実現に向けて、 コア技術の深化と進化に取り組む 燃える技術者集団へ

2プラス3

全社方針

1. マシンビジョン照明事業の
基盤強化
2. 新規事業分野の創造と
育成・拡大



技術開発本部の施策

1. コア技術の深化と進化
2. 攻守両面の知的財産戦略
3. 技術者の育成

特許出願・登録件数の推移



技術開発本部
本部長 各務 嘉郎

Q1 技術開発部門の体制が変わりましたが、
その背景、新体制を教えてください。

A シーズの発掘から商品開発までを
一貫通貫で推進できる体制に変更しました。

2008年8月にシーシーエスの技術開発本部長に就任しました。2007年12月にシーシーエスの顧問になるまでは、大手電機メーカーの全社技術企画や研究開発の責任者をしていました。そこでは、材料力学、振動、音響、電磁場/電磁波など様々な現象解析のシミュレーションソフトの開発に携わり、その後はビジネスマーケットに沿った研究開発体制の構築や、10年先を見据えた先行技術開発など、長期的視野に立った組織作りを行ってきました。シーシーエスの技術全般を統括することになり、まず私は、研究開発のシーズ発掘から、商品開発まで一貫通貫で推進できるようにするため旧技術本部と光技術研究所を統合することにしました。現業の足元を固めるとともに先への布石も同時に打てる体制にしたのです。

Q2 技術開発本部の新たな方針を
ご説明いただけますか。

A 「コア技術の深化と進化」、「知財戦略」、
「技術者の育成」を掲げています。

第16期は、「2プラス3」即ち二つの大きな目標と三つの施策を掲げました。全社方針として、1. 「マシンビジョン(画像処理用)照明事業の基盤強化」、2. 「新規事業分野の創造と育成・拡大」という、2つの大きな目標があります。この全社目標の達成に向けて技術開発本部として、次の3つを重点施策に掲げました。1つ目は、コア技術の深化と進化です。既存のマシンビジョン照明製品のフルモデルチェ

ンジとラインアップ拡充を図り、新規事業分野の創造に必要となるコア技術の深化と進化に取り組んでいきます。それから、2つ目が攻守両面の知的財産戦略、3つ目が技術者の育成です。

Q3 重点施策を具体的に教えてください。

A コア技術の開発ロードマップに基づいて、
技術者が研究開発を進められる体制を構築します。

既存のマシンビジョン照明商品は、業界のリーダー企業として、1歩も2歩も他社に先んじた商品開発を進めなければなりません。そのカギを握るのがコア技術です。コア技術を、さらに深化させ、既存製品のフルモデルチェンジ、ラインアップの拡充を図り、マシンビジョン照明事業の事業基盤をより強化したいと考えています。また、中長期的な成長のためには、マシンビジョン照明分野以外の新しい分野の育成・拡大も重要となってきます。ベースとなるコア技術を進化させ、新規事業分野を創造し、新たな事業の軸を作り上げたいと思います。

コア技術の開発テーマとしては、照明用の機器設計技術や電源制御設計技術、システム化技術、LEDデバイス技術、新光源技術、バイオ・メディカル、材料加工技術など、川上から川下まで多岐にわたりますが、これらについて、3~5年先までの技術開発ロードマップを作成し、それを拠り所として技術者が研究開発を進めていけるようになるつもりです。

また、LED関連業界は、膨大な数の特許で縛られています。重要案件についてはきっちりと特許マップを作成し攻守両面の知財戦略を構築しようと考えています。

Q4 新規事業のメインとなる
自然光LEDの開発状況はいかがですか。

A 年内に生産体制、販売体制を整備する予定です。

自然光LED(P6の用語解説をご参照下さい)搭載商品を他社に先駆けて市場に投入するため、生産設備の導入を終えてLEDチップ実装の量産体制を整え、商品化を進めている段階です。来年初めには自然光LED搭載商品の販売体制が整います。用途としては、目視検査用、内視鏡、顕微鏡、店舗用スポットライトを想定していますが、実用化が進めば、さらに用途は広がってくると思います。

Q5 その他の新規分野では
どのような取り組みがありますか。

A バイオ、メディカル分野などで新たなマーケットを作っていきます。

バイオ分野では、植物育成工場におけるLED照明の実用化を目指しています。現在は、植物の効率育成などを目的としたLED照射技術の研究開発に取り組んでいます。また、メディカル分野では、電子内視鏡があります。既に、CCSの自然光LEDを搭載した電子内視鏡で、山口大学医学部でヒトの大腸の観察に成功しています。商業用、民生用分野では、店舗用のスポットライト、博物館・美術館用の照明などです。新たなコア技術を育成することで新しいマーケットを創造していきたいと考えています。

Q6 技術者の育成についての
考えをお聞かせ下さい。

A 優秀な技術者がいるところには優秀な技術者が集まってきます。

シーシーエスでの私の使命は、これまで培った経験を活かし、今後の長期的発展の基盤となる研究開発体制を構築することや、その基となる技術者のマインドを醸成することです。“優秀な技術者がいるところには優秀な技術者が集まってきます。”自社技術に捉われることなく、大学や他の研究機関との連携を図り、技術に深みをつけ、検証に裏づけられた商品をきっちり開発していく、それが技術者の自発的な開発意欲の向上、視野拡大につながり、当社の技術開発力の強化につながります。その結果、さらに良い人材が集まってくるという好循環が生まれると思います。

今まで数多くの人材を見てきましたが、シーシーエスには非常に優秀な人材が揃っています。あとは、その人材が上司や先輩の背中を見て、さらに自分を磨いていけるような文化・風土を作っていくことが重要だと考えています。時間がかかることですが、生き生きと目の輝いた“燃える技術者集団”を育てていきたいと思っています。

Q7 技術開発本部長としての意気込みをお聞かせ
いただけますか。

A 技術者に、開発に取り組む喜びを知ってもらいたい
と思います。

今後の成長に向けて、新規事業については、既存事業とは別の判断基準を持ち、積極的に開発投資していこうと考えています。

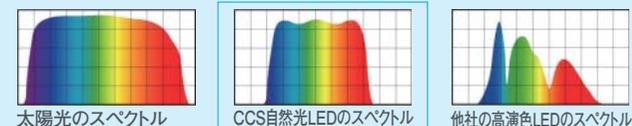
経営トップが夢やビジョンを語り、その夢を技術者が必死になって実現していく、それこそが企業における研究開発の真髄であると思います。技術者には夢を現実に変える熱き想いが必要だと日々感じています。技術者の1人1人に、開発に取り組む喜びを知ってもらうことができればとても嬉しいですね。

用語解説

■自然光LED™

CCS自然光LEDの波長は、太陽光に近く、
なおかつ有害な紫外線と赤外線が含まれていません。

■光源のスペクトル(光の波長と強さの関係)

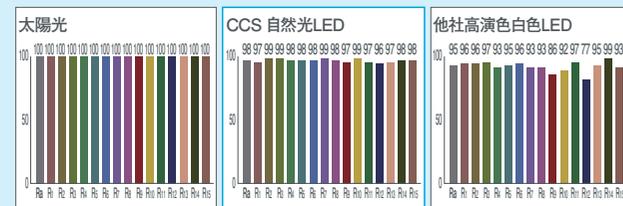


シーシーエスの自然光LED照明の特長
①太陽光の下での色味と同じ色が再現できる。
②対象物を傷めない。

山口大学の田口常正教授と共同で、色の再現性に優れた自然光LED照明を開発しました。例えば太陽光を100とすると、現在、他社の演色性の高い白色LEDで92、一般的に使われている白色LEDは70以下であり、当社の自然光LEDは98という業界では最高レベルを実現しています。LEDは、省エネで、環境にやさしい光源として期待の高い技術ですが、さらに自然光LEDは、太陽光に近い光で様々な色を満遍なく出すという特長があります。自然光LEDを用いると、百貨店の化粧品や衣料品売場、花屋などで屋内に居ながら太陽光の下での色味を確認できます。また、紫外線を含まないという、もう一つの特長をいかして、美術館・博物館の芸術品や重要文化財を照らした場合、作品を傷めることがありません。なおかつ、本来の色味を鑑賞できます。さまざまな業界から高い期待が寄せられています。

■演色性とは？

照明で照らされた物の見え方を演色性という。演色性は演色評価数(基準=100)で示し、演色評価数が15種の色に対して定められている。



連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

※ 百万円未満を切り捨てています。

■連結貸借対照表 (単位:百万円)

科目	当期 (2008年7月31日現在)	前期 (2007年7月31日現在)
資産の部		
流動資産	3,489	2,905
1 固定資産	1,442	1,346
有形固定資産	1,210	1,092
無形固定資産	112	115
投資その他の資産	119	138
資産合計	4,931	4,252
負債の部		
流動負債	873	839
固定負債	607	416
2 負債合計	1,481	1,256
純資産の部		
株主資本	3,446	2,982
評価・換算差額等	4	13
純資産合計	3,450	2,995
負債純資産合計	4,931	4,252

1 POINT 固定資産

固定資産の残高は1,442百万円となり、前期末より96百万円増加しました。この主な要因は、新研究棟(「シーエス光技術研究所」)の建設、オリジナルLED製造設備等により有形固定資産が117百万円増加したことによるものです。

2 POINT 負債合計

負債の残高は1,481百万円となり、前期末より224百万円増加しました。新研究棟の建設等の資金調達により借入金が273百万円増加したこと等が要因です。

■連結損益計算書 (単位:百万円)

科目	当期 (2007年8月1日から 2008年7月31日まで)	前期 (2006年8月1日から 2007年7月31日まで)
売上高	5,602	5,185
売上原価	2,005	1,950
3 売上総利益	3,597	3,234
販売費及び一般管理費	2,817	2,524
4 営業利益	779	710
営業外収益	26	29
営業外費用	41	18
経常利益	765	721
特別利益	-	0
特別損失	6	2
税金等調整前当期純利益	758	719
法人税、住民税及び事業税	275	268
法人税等調整額	△ 18	19
当期純利益	501	431

3 POINT 売上総利益

増収効果に加え、製造方法の効率化や部品の共通化で売上総利益率は1.8ポイント上昇しました。

4 POINT 営業利益

オリジナルLED開発などによる研究開発費および減価償却費の増加を吸収し、営業利益率は0.2ポイント上昇しました。

■連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科目	当期 (2007年8月1日から 2008年7月31日まで)	前期 (2006年8月1日から 2007年7月31日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	476	259
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 329	△ 491
財務活動による キャッシュ・フロー	234	△ 34
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 1	16
現金及び現金同等物の 増減額	379	△ 249
現金及び現金同等物の 期首残高	560	810
現金及び現金同等物の 期末残高	940	560

■連結株主資本等変動計算書 2007年8月1日から2008年7月31日まで

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	
2007年7月31日残高	458	573	2,024	△ 74	2,982	13	13	2,995
連結会計年度中の変動額								
新株の発行	1	1			3		-	3
剰余金の配当			△ 40		△ 40		-	△ 40
当期純利益			501		501		-	501
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)					-	△ 9	△ 9	△ 9
連結会計年度中の変動額合計	1	1	460	-	463	△ 9	△ 9	454
2008年7月31日残高	460	575	2,485	△ 74	3,446	4	4	3,450

個別財務諸表

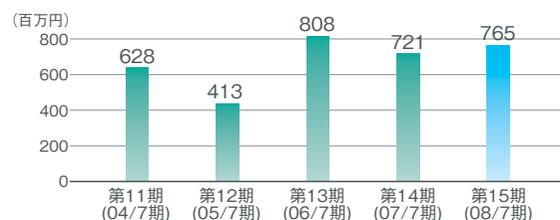
Financial Statements

※ 百万円未満を切り捨てています。

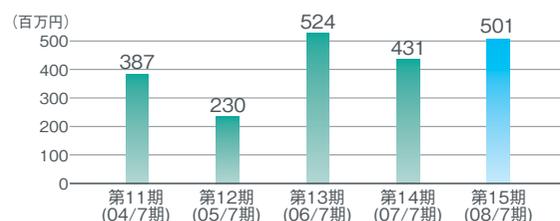
■売上高



■経常利益



■当期純利益



■1株当たり当期純利益



■貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期 (2008年7月31日現在)	前期 (2007年7月31日現在)
資産の部		
流動資産	3,002	2,538
固定資産	1,556	1,444
有形固定資産	1,189	1,064
無形固定資産	89	86
投資その他の資産	278	293
資産合計	4,559	3,983
負債の部		
流動負債	763	722
固定負債	604	412
負債合計	1,368	1,135
純資産の部		
株主資本	3,191	2,847
純資産合計	3,191	2,847
負債純資産合計	4,559	3,983

■損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期 (2007年8月1日から 2008年7月31日まで)	前期 (2006年8月1日から 2007年7月31日まで)
売上高	4,887	4,504
売上原価	1,855	1,779
売上総利益	3,031	2,724
販売費及び一般管理費	2,426	2,100
営業利益	604	623
営業外収益	28	19
営業外費用	32	17
経常利益	600	625
特別利益	-	0
特別損失	6	1
税引前当期純利益	594	624
法人税、住民税及び事業税	224	235
法人税等調整額	△ 11	23
当期純利益	381	366

■株主資本等変動計算書

2007年8月1日から2008年7月31日まで

(単位:百万円)

	株 主 資 本										純資産合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本合計		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計				
				特別償却準備金	固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金					
2007年7月31日残高	458	573	573	7	0	0	1,490	391	1,889	△ 74	2,847	2,847
事業年度中の変動額												
新株の発行	1	1	1								3	3
特別償却準備金の取崩				△0				0				
固定資産圧縮積立金の積立					△0			0				
別途積立金の積立							300	△ 300				
剰余金の配当								△ 40	△ 40		△ 40	△ 40
当期純利益								381	381		381	381
事業年度中の変動額合計	1	1	1	-	△0	△0	300	40	340	-	343	343
2008年7月31日残高	460	575	575	7	-	0	1,790	432	2,229	△ 74	3,191	3,191

TOPIC 01

新研究棟・光技術研究所内にショールームがオープン



光技術研究所1Fショールーム

新用途の照明と
環境にやさしいLED照明を展示

2008年1月に稼動しました「シーシーエス光技術研究所」内に2008年7月、ショールームを開設しました。

製品コーナーでは、顕微鏡用LED照明、そして店舗用やインテリア用途のゆらぎ照明やスポットライトを展示しています。

また、光テーマ別体験コーナーでは、自然光LED照明を用いての色の見え方を実感いただけ、さらに赤・青・緑の植物育成用LED照明を用いての色の違いによる植物育成の様子もご覧いただけます。

TOPIC 02

京都大学とシーシーエスが共同研究

フェムト秒レーザーを用いて次世代照明の実現を目指す

フェムト秒レーザーによる加工技術(*)を応用した次世代照明の実現に向け、2008年8月、京大桂ベンチャープラザにて、京都大学大学院・平尾一之教授と共同研究・開発を開始しました。平尾研究室が推進する「フェムト秒レーザーによる微細加工の応用研究」の成果をもとに、照明の基盤となる光学部品・照明の高機能・高性能化のための技術を確認していきます。そして3年後をメドに、当社の展開する工業用照明や新用途の照明(植物育成用、医療用、商業用、民生用)に、その技術を活用し、次世代照明の実現を目指します。シーシーエスと京都大学は産学連携し、さらに地元企業との交流を通じ、地域産業の活性化にも貢献していきたいと考えています。

* フェムト秒(1,000兆分の1秒)レーザーをガラス材料などの表面・内部に当てることで微細な加工を施す技術のこと。



京大桂イノベーションセンターに研究室を設置

人と地球にやさしい世界企業を目指す

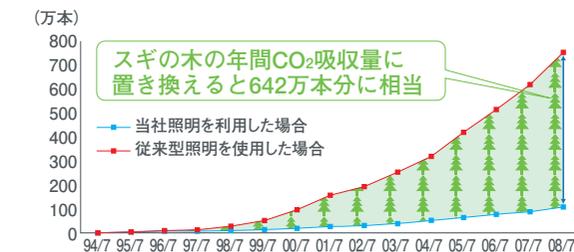
当社は既存分野にとどまらず、様々な分野で
人にやさしく、地球環境にやさしい
光ビジネスを展開・拡大していきます。

■ 広がるシーシーエスの光ビジネス



主力事業
マシンビジョン照明

■ CO2削減に貢献





■ 会社概要 (2008.7.31 現在)

本社所在地 〒602-8011
京都市上京区烏丸通下立売上ル
桜鶴岡町374番地
TEL. 075-415-8280(代表)
FAX. 075-415-8281(代表)

設立 1993年10月6日
資本金 460,350千円
従業員数 203名(連結) 186名(単独)
取引銀行 三菱東京UFJ銀行・みずほ銀行・京都銀行

事業内容 ● 画像処理用LED照明装置
および制御装置の開発、製造、販売
● 顕微鏡光源用LED照明装置
および制御装置の開発、製造、販売
● 植物育成用LED照射装置
および制御装置の開発、製造、販売
● 医療用LED照明応用製品の
開発、製造、販売
● その他LED応用照明の開発、
製造、販売

事業所 生産センター、シーシーエス光技術研究所、
東京営業所、名古屋営業所、
仙台テストングルーム、上海駐在員事務所、
深圳駐在員事務所

関連会社 CCS America, Inc.
RDV(S)PTE LTD
CCS Europe NV

■ 役員 (2008.10.24 現在)

代表取締役社長 米田 賢治
取締役 各務 嘉郎
取締役 穂本 光
取締役 河嶋 良和
取締役 高山 啓
監査役 松室 伸二
監査役 入江 英典
監査役 安封 昂雄

■ 株式の状況 (2008.7.31 現在)

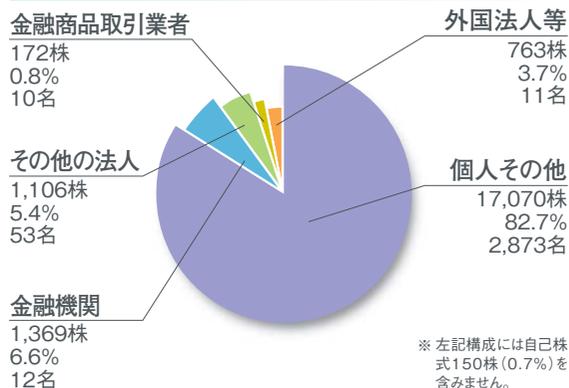
発行可能株式総数 60,000株
発行済株式の総数 20,630株
売買単位 1株
株主数 2,960名

■ 大株主の状況 (2008.7.31 現在)

株主氏名	株式数	所有株式数の割合
1 米田 賢治	7,800株	38.08%
2 日興シティ信託銀行株式会社(投信口)	597株	2.91%
3 株式会社サン・クロレラ	506株	2.47%
4 ザ チェースマンハッタンバンク エヌエイロンドン エスエルオムニバスアカウント	404株	1.97%
5 日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	324株	1.58%
6 シーシーエス従業員持株会	317株	1.54%
7 米田 美鈴	250株	1.22%
8 安井 由美子	180株	0.87%
8 サン・クロレラ販売株式会社	180株	0.87%
10 杉島凱夫	165株	0.80%

※ 所有株式数の割合は自己株式150株を控除して計算しております。

■ 株主構成 (2008.7.31 現在)



株主メモ

事業年度 毎年8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会 毎年10月
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社
全国本支店
野村證券株式会社 全国本支店
公告方法 電子公告
公告掲載 URL
<http://www.ccs-inc.co.jp/ir/koukoku.html>
(事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。)
基準日 期末配当金 毎年7月31日
中間配当金の支払いを行うときは
毎年1月31日
上場証券取引所 JASDAQ
証券コード 6669

WEBサイトのご案内

「企業情報」では、動画とイラストでシーシーエスの事業内容や強みについて知っていただける「3分でわかるCCS」をご覧ください。

「IR情報」では、財務ハイライトやニュースリリース、説明会の動画などを随時更新しています。

ぜひご覧いただきまして、「お問い合わせ」のページからご意見・ご質問など、皆様のお声をお寄せいただければ幸いです。



藤袴・光の回廊に当社のゆらぎ灯籠50基が灯る

KBS京都が提唱する「守ろう!藤袴」プロジェクトに呼応して、京都・烏丸通りで開催された「藤袴・光の回廊」(主催:烏丸迎賓館通り会、日時:9月9日~9月24日、19時~21時)におきまして、当社のLEDゆらぎ灯籠50基が設置されました。「藤袴・光の回廊」は、藤袴100鉢を飾り、ライトアップするイベントです。初日の9月9日(火)には、シーシーエス社屋前スペースにて点灯式が行われました。式典では、主催者、来賓のご挨拶、当社米田社長からのご挨拶の後、「LEDゆらぎ灯籠」「LEDスポットライト」を一斉に点灯。藤袴の花を、LEDのやさらかな光で灯し、源氏物語千年紀の秋の夜に彩りを添えました。ご参加いただいた皆様には乾杯の後、和やかな歓談のひとつときをお楽しみいただきました。

● シーシーエス社屋前での点灯式の模様



- シーシーエス製 LED ゆらぎ灯籠
ろうそくの灯りのように揺らぎ、省電力で環境にやさしい照明として、地域のイベントにご提供しております。



- 社屋前に設置されたLEDゆらぎ灯籠とLEDスポットライト



シーシーエスは「守ろう!藤袴」プロジェクトに協賛しています。

藤袴は秋の七草の原種のひとつで、源氏物語第三十巻のタイトルにもなっています。絶滅の危機から、KBS京都が「守ろう!藤袴」プロジェクトを立ち上げており、当社もこのプロジェクトに協賛しています。

- 満開の藤袴と蝶々(ツマグロヒョウモン)
(開花時期9月下旬~11月)

<http://www.ccs-inc.co.jp>

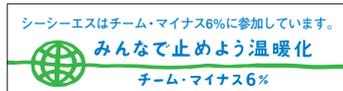


シーシーエス株式会社

〒602-8011
京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374番地
TEL. 075-415-8280(代表) FAX. 075-415-8281(代表)

■ 免責条項

本報告書に掲載している将来に関する予想については、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、異なる場合があることをご承知おきください。



ジャスダック証券取引所2008年度「優良IR賞」を受賞

270社の応募会社の中から6社選定され、当社はビジネス展開についてわかりやすく説明しようという姿勢が評価されました。

